特定非営利活動法人　九州大学こころとそだちの相談室

第20号

発行日　2014／9／15

こだち　News

目次

滝川一廣先生公開SVの報告　2

設立8周年記念講演会のお知らせ　2

「ここりーと」のご紹介　3

相談員コラム　3

掲示板　4

巻頭言

「こだち」に寄せて

学習院大学大学院教授　　滝川一廣

このニュースレター、「こだち」という名前がよい。レターの写真に見る相談室脇の木立にちなんでいるのだろうか。

先日、不登校中高生のための全寮制の学園でサマースクールがあり、お招きをいただいて、子どもが生活のなかで育つとはどういうことか、という話をした。本音をいえば、このたびお世話になったようなケース・スーパーヴィジョンのほうがやりやすく、レクチャアは不得手である。スーパーヴィジョンなら、そこで報告される事例をたどりながら、そこから連想したり思いついたことを話せば済むけれども、レクチャアではあらかじめ何を話すか全部自分で用意しないといけない。自由なようで不自由で、その用意や準備がわたしには、なぜか、できない。なぜか？　要は怠け者というに過ぎまいが・・。ちなみに、大学でも講義ノートを準備して計画的な授業ができないたちで、シラバスを出しなさいといわれてもお手上げである。

こんなことを書き始めたのは、この巻頭言は内容自由、「どういったことでも結構」というご依頼で、わたしにはレクチャアと同じ構造で、うーん、困ったと思ったからである。締め切りがきても、なかなか手がつかない。

サマースクールでは、結局、なんとかその場で考え考えしながら、話を終えることができた。合理化すれば、用意された筋道どおり粛々と説かれる話よりも、話し手もどこにたどりつけるわからない探索的な話のほうが、聴き手にとって創造的な喚起力をもつ可能性がないとはいいきれない。いや、やっぱり合理化だなあ。

考え考え話すのに助けになったのは、教室の外にひろがる木立の風景だった。その学園は山奥にあって、窓のむこうには谷を隔てて青々とした山がそびえている。植林ではなく、自然木が鬱蒼と繁った山である。それに目を遊ばせながら、樹々の懐に包まれた感覚のなかで、考えを紡いだり、繋いだり、なんとかやりくりをしおおせた。テーマが「育つ」だったので、シンクロナイズしやすかったのか。蝉しぐれがしきりだった。

木立ってなんだろう。木立に包まれるってことが、なぜこんなにも心地よいのだろうか。木立があるっていいなあ。樹木のもつ静かな、しかし凛とした生命感。いにしえの人々が樹木を畏敬し、崇拝したのも不思議はない。いや、近代のはじめでも、ピュイセギュールは樹木による動物磁気治療を試みたのではなかったか。木立のまわりに輪になっている人々の図版をどこかでみた。心理臨床のルーツには、この風景がある。そういえば「バウムテスト」というのもあったけ。それが心理テストになるのは、やはり樹木というものがわたしたちのこころの奥でなにか深い意味をもっているためだろう。

どなたの命名か、「こころとそだちの相談室」にいかにもふさわしいネーミングとあらためて感じ入るのである。相談室の充実と発展を期待いたします。

滝川一廣先生　公開スーパービジョンの報告

2014年5月31日、当法人第八回定時総会を記念して滝川一廣先生をお招きしての公開スーパービジョンを開催しました。当日の様子について報告いたします。

滝川先生は、精神科医としての豊富な臨床経験をお持ちの先生です。滝川先生のスーパーヴィジョンを拝見する貴重な機会となりました。

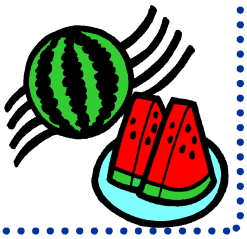
スーパービジョンでは、ヨコクラ病院の鎌田怜那先生に事例提供していただきました。鎌田先生が児童養護施設で出会った児童とのプレイセラピーの事例であり、クライエントとセラピストが共に成長していく過程が表現されていました。鎌田先生が事例をふり返りながら率直にご自身の気持ちを語っておられたのが印象的でした。

滝川先生は、物腰の柔らかな口調でお話しされて、場の安心感を作り上げてくださいました。安心感のある雰囲気の中で、鎌田先生とフロアーの連想を拡げるようなコメントをなさっていました。プレイセラピーにおいて表現される現象の多義性を皆で味わう時間となったように思われます。

参加者の皆様の感想には、「発表者の誠実な態度・関わりがよかった」「思いがけない視点から事例を見ることができた」といったものが見られました。参加者の皆様にとっても、スーパーヴィジョンに惹き込まれ、大きな刺激を受けた時間となったようでした。

公開スーパービジョンを振り返って　鎌田怜那先生（ヨコクラ病院）

公開SVで発表させて頂いたケースは、私にとって最も思い入れが強いのと同時に十分に整理できていないままのものでした。それを発表することはとても勇気が要りましたが、滝川先生の優しい声、温かい雰囲気に後押しされて、しっかりと向き合えたように思います。少年の心を理解しようとする先生の姿から得るものは多く、ケースだけでなく、我が子との向き合い方も教わったように思います。とても有意義な時間をありがとうございました。



こだち設立8周年記念講演会のお知らせ

「自閉症スペクトラムの生涯発達」

この秋八周年を迎えるこだちでは、村田豊久先生（児童精神科医）をお招きしての講演会を開催いたします。村田先生は、長年にわたって発達障害をはじめとした子どもの臨床に携わってこられました。ぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。

日時：2014年11月2日（日）午後　14時～16時（13時半開場）
会場：九州大学医学部百年講堂中ホール（福岡市東区馬出3-1-1）
対象：対人援助職全般（心理職、医師、看護師、教師、福祉職等）、それらを目指す学生
申込方法：FAX、郵送、もしくはメールにて受付。詳細はチラシ・ホームページ等でご確認ください。

ミドリ印刷

フリースペース事業「ここりーと」のご紹介

☆対象：こだちにて本人もしくは保護者が面接を継続している、10~22歳の男女。
☆活動日時：水曜日と金曜日の13時~16時。時間内は出入り自由です。
☆場所：こだちのプレイルームで数人の子どもと数人のスタッフ（合計4~5人程度）で活動しています。
☆活動内容：その日の利用者の希望や状態によって決まり、話す、遊ぶ、散歩する、ボーっとする、寝る…と自由です。時には誕生日会やBBQ等のイベントを行うこともあります。
☆利用料金：月5,000円です。

そこに行けば、誰かと出会い、他愛もない話をし、気を遣わずにのんびり過ごすことができる…人は誰でも、そういう場所や時間があることで、少し元気になれたり、希望を持てるのかもしれません。ここりーとは、自由にゆったりと子どもたちが子どもらしくその場にいることのできる空間の提供を目的とした居場所活動です。人との間で「ちょっとつかれたなぁ…」という思いをしてきた子どもたちにとって、家庭の外に在る安心して居られる場所になればと考え、活動を行っています。子どもの中には、安心して人と関われるようになることでエネルギーを蓄え、次第に次の居場所（高校やフリースクール）へと足を踏み出した子どもたちもいます。

スタッフは臨床心理学を学ぶ大学院生です。毎回活動後にはスタッフ同士でのシェアリングを行い、時には保護者面接担当者との情報共有も行いながら、子どもの様子を考え、活動を進めています。

相談員コラム

橋を渡る

こだち相談員
飯田有紀

私は幼い頃から、「橋」を渡るのが好きです。名物になるような長い橋、吊り橋はもちろん、通行料を払って渡るような大きな橋を車や電車で渡るのも、歩道橋でも、丸太がかかっただけの簡単な橋を徒歩で渡るのでもいいのです。橋のない街はありません。初めての場所も、どんな橋があるんだろう？と思えば、未知なる場所への不安が期待に変わるのです。橋を渡ること自体が何かしら達成感があり、日常の中での非日常を感じやすく、気分をリフレッシュしてくれます。

日々、様々な人々の悩みや問題について、お話を聴き、共に考え話すことは私にとっては日常です。しかし、相談に来られる方にとっては、非日常です。今までに渡ったことのない橋を、心許ない不安な気持ちで「こちらからあちらへ」軽やかにわたってきた人もいれば、一歩一歩踏みしめつつ慎重に、思い切って渡ってきた方もいるでしょう。そんな相手と自分との間に、相談室で会いお話を聴き、言葉を交わすことが、こころの中の橋のない場所に、橋がうっすらとでもかかる行為であってほしいと思っています。当初、橋の下は流れの速い川が横たわっているように感じられたり、不安定な壊れかけた橋であっても、帰る頃には少し丈夫な渡りやすさを感じられること。度々会うことでだんだんと橋が修復されたり、場合によっては新しい橋にかけ替えたり、といったひとりではできない作業を、２人で、もしくは集団の力で行うこと。相談室という場所で知りえたことや気づきを持ち帰り、家族や、職場や学校、それぞれの人にとって、必要なこころの場所に橋が次々とかかっていく…。そんなことをイメージしながら、日々相談室の中で話をしています。

こころの中に橋がかかることは, 簡単ではありません。しかし、少しずつでも橋が繋がっていき、渡れるようになる。その眼に見えない橋の存在を感じる象徴、それが日々渡りたくなる橋なのかもしれません。自分が橋を探し、渡ること。それはより良い未来が創られていってほしいという、願いであり、希望であるのかもしれませんね。

掲示板　こだちよりお知らせ

書籍紹介

臨床心理学第１４巻第４号
特集　シリーズ・発達障害の理解④
学校教育と発達障害
金剛出版

近年、学校現場で注目を集めている発達障害ですが、心理臨床家には児童生徒を適切にアセスメントし、学校の中でどのような関わりが可能であるかを教員にコンサルテーションを行うことが求められていると思います。

さまざまな立場から学校教育と発達障害についてより広く、より深く学び、現場に活かすことができる一冊になっています。当法人専務理事の増田健太郎が監修いたしました。

子どもの心と学校臨床第11号
特集　いじめへの対応と予防
遠見書房

「いじめへの対応と予防」をテーマとして、多数の心理臨床家が様々な視点から論じています。ネットいじめの深刻化など、時代とともに移り変わるいじめの問題について理解することは重要なことだと考えられます。学校臨床を行う方はもちろん、その他の領域で心理臨床を行う方にも参考になることと思います。

当法人理事長の田嶌誠一による、「学校のいじめ、施設の暴力、それがつきつけているもの」という講演録も掲載されています。

○入会のご案内
こだちは今年で8年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。
NPO法人の会員となって私たちの活動を支えていただけると幸いです。会員になっていただける方はぜひこだちまでご連絡ください。なお、会費は１年毎の更新制です。よろしくお願いいたします。

○ご支援のお願い
当NPO法人では会員以外の方からも、ご寄付をおまちしております。関心や興味をもたれた方はぜひご連絡ください。

編集後記　今回のニュースレターは「夏」をイメージしたカラーリングにしてみました。僕の中では夏は黄色い季節なのです。太陽の光やヒマワリの印象が強いのかもしれません。みなさんにとっては夏は何色の季節でしょうか？（Y）

交通のご案内

地下鉄でお越しの方
福岡市営地下鉄空港線西新駅下車後
７番出口より徒歩にて約１０分

特定非営利活動法人　九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002
福岡市早良区西新2-16-23　九州大学西新プラザ内　産学交流棟

TEL　092-832-1345　　FAX　092-832-1346
HP　http://www.geocities.jp/npo_kodachi/